経済危機に生きる

訪日客誘致や企業進出支援

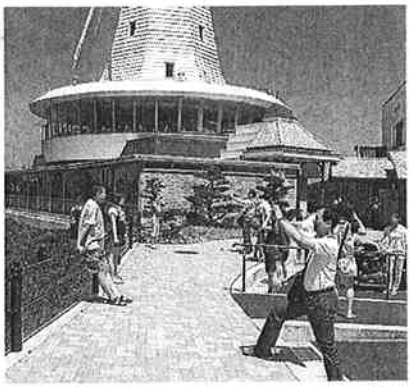
中国・台湾出身者が活躍

経済成長を続ける中国をターゲットにしたビジネスが、静岡県内でも活発だ。企業の進出に加え、中国人観光客の誘致を狙った取り組みが増えるなか、県内に拠点を置き、日中両国の交流をサポートする中国・台湾の出身者の活躍が目立つ。

JR御殿場駅から車で約10分。富士山を目前に見渡せる高台にあるドライブイン、御殿場美華ガーデンは今夏、中国、台湾、香港などからのツアー客で大変なにぎわいを見せた。7月の来店者は約1万2000人、8月は約1万6000人。中国など海外の顧客が全体の90%以上を占めた。

美華ガーデンは2008年7月に開業。中国などの140以上の業者と組み、主にバスを使った団体客を受け入れる。人気の理由は立地条件のほか、バイキング形式の食事を取り入れ、食事前に待たされない工夫をするなど、中国人の好みに合わせていることだ。

運営会社の旭生（御殿場市）の薛森唐（セツ・シントウ、52）は台湾の高雄市出身。1980年に来日し、慶応大に入学。卒業後は西武ライオンズに入社し、台湾出身の郭泰源選手の通訳も務めた。その後、東京都内のプリンスホテルの副支配人などを歴任。2005年に独立、静岡県小山町に中国人観光客向けホテルを開業した。



中国などからの外国人観光客でにぎわう御殿場美華ガーデン（御殿場市）

旭生
薛森唐氏

創業のきっかけは、「経済成長に伴い所得が増えた中国人の日本への訪問が増える」と予想したことだ。着目したのが富士山。日本を代表する観光スポットとして人気は高いが、周囲に中国人を受け入れる施設が少なかった。「ホテル勤務で培った人脈を生かしてツアーを呼び込めば、必ず成功する」と確信した。

世界的な景気低迷や新型インフルエンザの流行など逆風にもかかわらず、美華ガーデンは黒字経営を続けている。薛は「今年は18万人が利用する見込み。政府が掲げる、外国人観光客を10年までに年間1000万人に増やすという目標に貢献したい」と目を輝かせる。

県空港部
就航促進室
劉　芳氏

静岡県の空港部就航促進室に勤める劉芳（38）は、静岡空港の上海便の搭乗率向上に力を注ぐ。北京出身で96年に来日。静岡県立大大学院を修了後、通訳や中国語講師などを経て08年に県に入庁した。「両親が北京語言大に勤務していたため、日本人留学生と交流が多かった」ことで日本に興味を持った。

空港振興を担当した後、今年4月から現職。上海便はビジネス需要の低迷で苦戦しているが、「中国では静岡空港がまだよく知られていない。観光とタイアップし、静岡への関心を高めるアイデアを出していくのが私の役割」と意気込む。

中国に進出する日系企業向けに労務相談などを手掛ける南富士産業（三島市）。陳亮（26）は同社が誇る「頭脳」の一人だ。難関大学の武漢大を卒業。学生時代は同社の塾「グローバル・マネジメント・カレッジ（GMC）」で学び、経営のプロとして育てられた。

南富士産業
陳　亮氏

現在は日中両国を往来し、県内企業向けのコンサルティングを手掛ける。陳は「リスクをよく知らないまま中国に進出する企業が多い。中国ビジネスを成功に導くお手伝いをしたい」という。

文化や気質の違い、反日感情などはあるが、巨大市場である中国との関係拡大は県経済の発展にとって不可欠だ。静岡と中国とを橋渡しする3人の役割が、一層高まることは間違いない。

（静岡支局　西村正巳）

＝敬称略

＝おわり

静岡

浜松 053-452-8593
静岡 054-253-7191